

「みんなで暮らす地域社会づくりをめざして」

NPO神奈川県障害者自立生活支援センター

理事長 鈴木 治郎

- はじめに ○障害者が住民として生活する場所になっているか
- 「自立生活」とは ○自己決定・自己選択・生活の質(QOL)の向上
社会福祉サービスの活用
- 地域生活移行支援とは ○自立生活を支援することが目的
- 自立生活支援とは ○地域で必要な支援を得ながら「自分らしく生活」する
- 当事者なりの役割を持った自己実現と希望する生き方の尊重
- 「できるか・できない」ではなく、どんな支援があればいいか
当事者とともに考える
- 地域で支援する為のサービス(資源)の拡充と充実
- 施設および病院(精神科病床)が取り組むべきこと
- 施設・病院が全体として推進体制の明確化
- 職員全体の意識改革の必要性
- 多職種で構成する「地域生活移行支援委員会」の設置
- 地域の関係団体などと連携したプログラムの実施
- 地域の住民と出会う機会の充実 ・地域に外出する
・人と関る日中活動
・気軽に立ち寄れる施設
- 地域で暮らす当事者との出会い(ピアカウンセリングなど)
- 地域生活の情報提供と具体的なイメージづくり
- 聞き取り調査や見学・体験を通しての希望の明確化

- 地域生活体験実習を通して移行後の支援ポイントの明確化
- 当事者の希望を実現するための親・家族との調整
- 地域生活を体験できる場づくりの提供

施設・病院内での失われた「当事者主体」を復権するために

- 自由の追求(自己決定と自己選択の尊重)をしている
- メリハリのある生活を考えている
- 「平等の質」を考える
- 「休憩・駆け込み寺」的役割を目指す
- 生活の場(生活の中に施設を位置づける)を目指す
- 当たり前の生活を目指す
- 職員・施設本位でサービスを誘導しない
- サービスがライフワークに添っている
- 即効性・フットワークがある
- 「いやだ」と言える環境がある